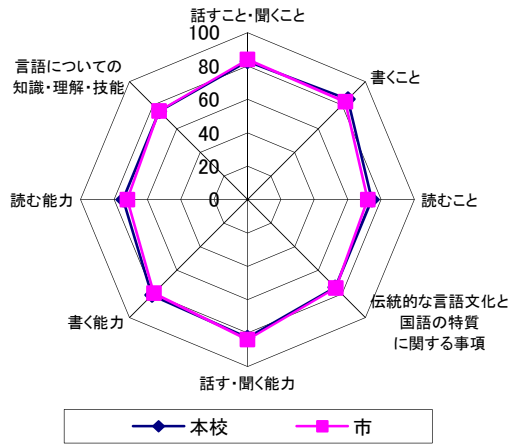


宇都宮市立古里中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	82.8	83.9	83.1
	書くこと	85.1	82.9	68.6
	読むこと	74.5	72.0	67.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.4	74.8	68.7
観点別	話す・聞く能力	82.8	83.9	83.1
	書く能力	80.9	79.3	67.0
	読む能力	74.5	72.0	67.8
	言語についての知識・理解・技能	74.7	75.0	68.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

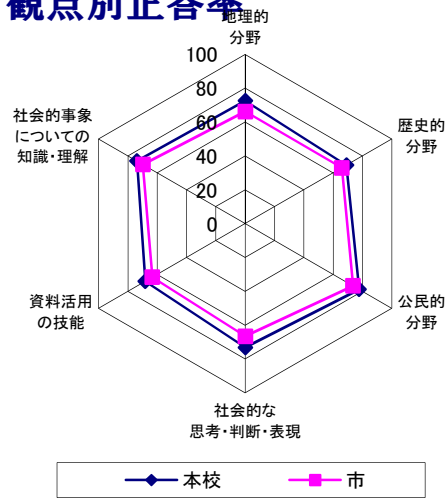
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●全体的に市平均より1.1%低かった。特に、聞き取った内容に対して、自分の意見を書く部分が市の平均より4.6%低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 授業中の話し合い活動では、男女間の会話が活発に行われないグループが見受けられるので、役割分担を明確にしたり、自分の意見をあらかじめメモするために、ふせん紙を使ったりして、活動を進めていきたい。話を聞くときには、少しでもメモを取る習慣を身につけさせたい。また、本校の課題でもある表現力の向上のために、普段の授業から自分の意見を表現できるよう指導していく。
書くこと	○ほとんどの生徒が積極的に作文を書くことができた。特に根拠を明確にして作文を書くことができた。	分かりやすさや、見やすさを工夫することで、相手の意識を高め、字もていねいに書く指導を続けたい。自分の意見をまとめる力を養い、さらに簡潔な文章が書けるように、具体的な例文を基に指導していきたい。
読むこと	○読むことに関して市の平均よりも2.5%高かった。特に書き手の理論の展開の仕方を的確に理解する問題は、5.4%も高かった。	筆者の考えを捉えたり、登場人物の心情の変化を読み取ったりするために、大切な箇所へのマーキング指導を続けていきたい。また論説文では、筆者の主張の展開の仕方から、より説得力のある文章とはどのような展開なのかを、指導したい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読みの問題は比較的出来がよかった。 ●漢字の書きや歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題などの正答率が低かった。	何気なく使っている言葉だが、歴史の積み重ねの上に、現在の言葉があることや、人間関係を良好に保つためには、適切な言葉遣いが必要であることを指導していきたい。語彙を増やし、適切な漢字表記ができるようにしていきたい。また、古の格調高い文学に触れ、その愉しさを伝えていきたい。古典作品は、暗唱することにより、リズムやことばの響きを感じる力を養いたい。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	72.5	66.2	58.0
	歴史的分野	69.0	65.8	60.8
	公民的分野	77.6	73.5	69.2
観点別	社会的な思考・判断・表現	73.2	66.6	58.6
	資料活用 of 技能	68.2	63.4	55.9
	社会的事象についての知識・理解	73.9	69.8	64.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

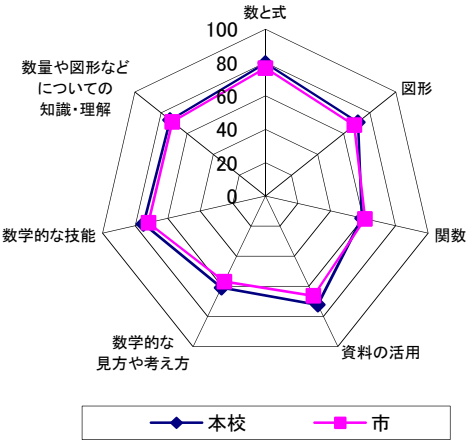
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○宇都宮市の平均を6%上回っている。 ●全体平均は上回っているが、北アメリカの地形の断面図、ヒスパニックについての理解が50%程度と低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 授業の導入部分などで、白地図を利用し、地形や位置関係が分かるような工夫をしたい。
歴史的分野	○宇都宮市の平均を3%上回っている。 ●社会科3分野の中では、宇都宮市平均同様に学校平均点は一番低い。 ●日本の産業革命が貿易に与えた影響について資料から判断する問題が50%以下であった。	中世や近世など1・2年生で学んだ内容が特に平均点が低い。考えて書く問題は、既存の知識が無くては解くことが難しい。範囲が広い実力テスト等でも必要なことなので、授業の中などで、関連することを取り扱う際に復習をする。
公民的分野	○宇都宮市の平均を4%上回っている。 ●憲法改正の手続きに関する問題の理解が全市平均よりも低い。	知識として習得する際に、図をイメージして覚えることができていなかった。授業で図を示すだけではなく、ノート、ワーク、テストと、図に触れる機会を多くしたり、図を書かせるなど板書等の工夫をしていきたい。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	79.7	76.7	72.6
	図形	70.9	68.1	63.8
	関数	59.3	61.2	54.4
	資料の活用	72.3	66.3	55.4
観点別	数学的な見方や考え方	60.9	56.8	50.8
	数学的な技能	75.0	71.9	66.7
	数量や図形などについての知識・理解	73.1	71.4	63.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

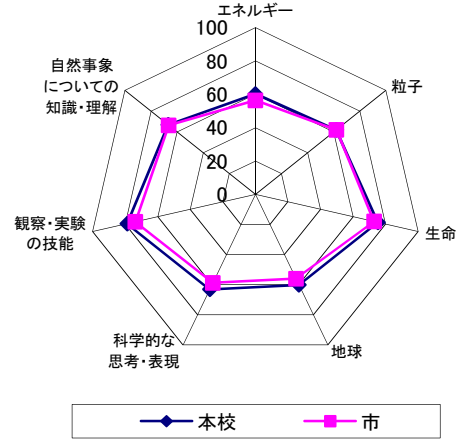
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○数と式の分野では、市の平均を上回っている。その中でも特に、方程式・連立方程式の分野で9%、2次方程式の分野で6%上回っていることから、方程式の分野が得意であると考えられる。 ●平方根の分野では市の平均を2%下回っており、混合を含む計算の仕方を復習する必要がある。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ほとんどの生徒が基本的な計算力を身につけているので、今後も授業の始めに行う小テストや、単元ごとの計算テストを行っていく。また、授業において、少々複雑な計算練習も多く取り入れることにより、幅広く計算できる力を養っていきたい。さらに、考え方や計算の仕方を説明する場面を授業に積極的に取り入れていきたい。
図形	○図形の性質を利用して証明する問題では、ほとんどの生徒が、筋道を立てて説明しようとしていた。 ●相似な図形では、市の平均を4%上回っているが、正答率にばらつきが見られるので、復習をしていきたい。	生徒が比較的簡単と感じる角度や長さを求める問題は、実は図形の性質を理解して初めて求められるものであることを自覚させ、その上で、図形の証明を正しく書くことができる生徒が多いので、授業中に自分で正しく証明できたことを自覚できる場面を多く用意し、一人一人が意欲と自信をもって証明問題に取り組めるようにする。
関数	○反比例・1次関数の問題では、おおむね正解をすることができている。 ●xの2乗に比例する関数の分野では、正答率が市の平均を5%下回っており、表やグラフに表すことによって変化の様子が考えやすくなることを、改めて復習する必要がある。	数学的な内容の習熟で終わらせるのではなく、具体的な場面にあてはめて考えることにより、関数の学習をより深く学ばせていきたい。また、yの変域の問題については、2乗に比例する関数に止まらず、比例・反比例や1次関数も含めて練習問題に多く取り組ませ、グラフをもとに変域を求める考え方を身につけさせたい。
資料の活用	○資料の活用、確率ともに良好であった。	練習問題を多く解くことにより、さらに習熟度を高めさせたい。また、身近な題材を取り上げて学習できる領域であり、生徒の関心を高めながら学習をさせていきたい。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	60.2	56.4	49.9
	粒子	61.9	62.0	57.4
	生命	75.2	72.9	67.1
	地球	60.1	56.0	48.5
観点別	科学的な思考・表現	63.1	58.8	52.1
	観察・実験の技能	78.8	73.8	67.6
	自然事象についての知識・理解	66.9	66.5	61.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

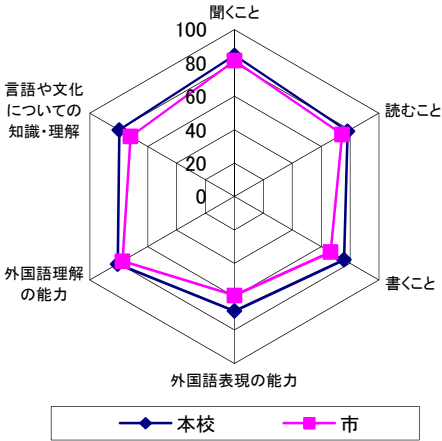
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○光の全反射、家庭の電気器具の使用時間を減らしたときの電力量の求め方は市の平均を5%以上大きく上回っている。 ●位置エネルギーと運動エネルギーと速さの関係を思考する問題では、73. 0%と市の平均を1. 3%下回っている。	位置エネルギーと運動エネルギーを扱う授業で、実際に振り子を見せたり、映像資料を提示することで、理解を深めさせたい。
粒子	○再結晶したときにできる物質の量の求め方、化学変化と物質の質量は市の平均を5%以上大きく上回っている。 ●水溶液とイオンの問題では、市の平均を17. 1%、11. 7%、5. 8%とすべて下回っている。	原子・分子については、理解しているため、イオンについても原子・分子と同様に、実験・観察をていねいに取り入れ、授業の振り返りや分かったことを自分の言葉で表現するなど、理解を深めるための方策をとる。
生命	○光合成に必要な気体、対照実験の活用問題、目の虹彩の働きを問う問題では、市の平均を5%以上大きく上回っている。 ●生物の生殖の問題では、0. 7%、2. 3%、8. 9%と市の平均をすべて下回っている。	減数分裂、受精、有性生殖など、生殖の基本が定着していないため、観察やICTの活用を多く取り入れる。
地球	○火成岩のでき方、春の温帯低気圧、天気の変化のようすと天気図の問題では、市の平均を5%以上大きく上回っている。 ●火成岩の特徴と火山の形とマグマの粘性の関係を問う問題では、56. 6%と市の平均を0. 9%下回っている。	火成岩の特徴と火山の形とマグマの粘性を関連づけて学習する。

宇都宮市立古里中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	84.6	81.4	76.1
	読むこと	78.2	74.4	71.2
	書くこと	75.7	66.5	60.7
観点別	外国語表現の能力	68.6	59.3	51.7
	外国語理解の能力	80.9	77.5	72.8
	言語や文化についての知識・理解	79.7	72.0	69.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○ほとんどの問題で宇都宮市の平均を上回っている。特に、対話の内容の聞き取りについては、ほとんどの問題で宇都宮市の平均を5%程度上回っている。 ●英文の要点を聞き取る問題で、その行為をいつはじめたのかについての問いでは82.0%の生徒が正解しているが、宇都宮市の平均を2.2%下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 英語による授業やALTとの対話活動から、まとまった英文を聞き取り、要点をまとめる力をつけたい。また、インタビュー活動を通して英文特有の表現を含む既習事項を繰り返し練習し、定着を図りたい。
読むこと	○ほとんどの問題で宇都宮市の平均を上回っている。特に、語形・語法を理解する問いでは、宇都宮市の平均を10%以上上回っているものもある。 ●代名詞themの内容を把握する問題では、85.2%と多くの生徒が正解しているが、宇都宮市の平均より1.9%少なかった。	単語や文法は繰り返し復習できる機会を授業の中でもうけていきたい。また、まとまった英文を読む機会を増やしたり、普段から教科書の文中の指示語を明確にし、文の大まかな内容を把握する活動を多く取り入れたい。
書くこと	○全体として良くできており、すべての問題で宇都宮市の正答率を上回っている。特に、自分の行ってみたい場所について、まとまった内容で説明する文を書く問いでは、宇都宮市の平均を10%程度上回っている。 ●多くの問題で70%以上の正答率であるのに対し、動名詞や不定詞を使って場面に応じて英語で説明する文を書く問題の正答率は54.9%で、低かった。	場面に応じて英作文を書けるようにするために、文法の語形・語法はもとより、使用場面も意識させる課題を設定していきたい。また、今後も基礎基本の文法事項を定着させるドリル活動を行い、5W1Hを意識した英作文の課題設定を工夫し、更なる向上を図りたい。